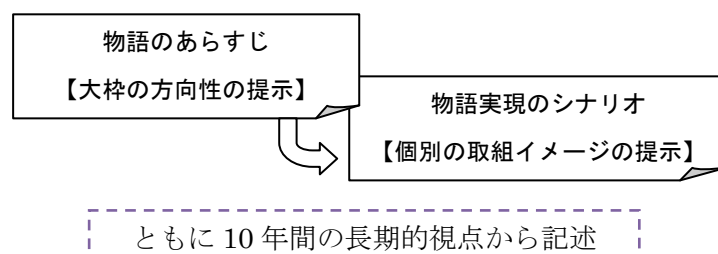


計画後半期からの計画推進手法及び評価手法の見直しについて
(中期事業計画の付加について)

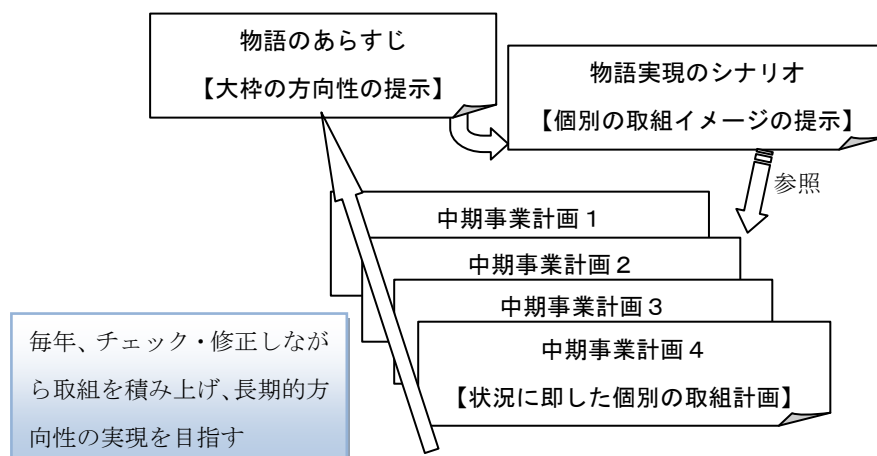
1 現行の課題点

現計画には、長期的な方向性（「物語のあらすじ」）とそれを具現化するための個別の取組（「物語実現のシナリオ」）が示されているが、それを現状に即して実現化していくための、それらの中間に位置する中期（2～3年間程度）事業計画がないため、進行度合いの把握や評価が曖昧となり、また、現状と適合しないシナリオで示された取組等の修正を図る機会がない。



2 今後の対応策案

計画に示された方向性の実現に向けた個別の施策については、その時点の国の施策や社会状況、適応技術など様々な要因によって影響を受けることがあることから、シナリオは取組イメージとしてそのままとし、これに加えて、その時点での達成状況や、様々な状況に即した中期的な事業計画を策定・提示することで、長期的方向性との合致度合いや達成度などの評価ポイントを明確にするとともに、その後の施策づくりにも活用することができる。



3 中期事業計画を組み合わせることでの計画推進と評価の連携イメージ

	計画推進	中期事業計画	評価
実施主体	市	市・委員会	委員会
平成 22 年度	○事業等推進	○策定(市)	○評価作業
平成 23 年度	○事業等推進	○参照(委員会) ○更新(市)	○評価作業 ○今後に向けた提言
平成 24 年度	○事業等推進	○参照(委員会) ○更新(市)	○評価作業 ○今後に向けた提言
平成 25 年度	○事業等推進	○参照(委員会) ○更新(市)	○評価作業 ○今後に向けた提言
平成 26 年度	○事業等推進	○参照(委員会) ○更新(市)	○評価作業 ○今後に向けた提言
平成 27 年度	○事業等推進	○参照(委員会) ○更新(市)	○評価作業 ○今後に向けた提言